

えいらい

No.17

平成 25 年 7 月 発行

発行元 / 一般財団法人永頼会 松山市民病院



〒790-0067 愛媛県松山市大手町 2 丁目 6-5 TEL / 089-943-1151 FAX / 089-947-0026
発行責任者 / 院長 山本祐司 編集 / 松山市民病院広報委員会

近況報告

～永頼会事業の変革と

信頼・実践の地域医療～

院長 山本 祐司



暑中お見舞い申し上げます。日頃より関係各位の皆様には、一般財団法人永頼会松山市民病院との連携・交流をいただき厚くお礼申し上げます。

今日本では、安倍政権の経済政策、アベノミクスなるものが期待だけではなく、実体経済がきちんと活性化され、希望が見えるような成長戦略となるよう前進しています。「経済再生と財政健全化」の目標値は高く設定され、社会保障費も聖域とせず見直しという項目が気になるところです。

一方、日本と北東アジア諸国との政治・外交での冷めた関係は、今後世界経済の成長エンジンたるアジアとの企業活動のみならず、国民の家計や観光などの経済活動にも影響を及ぼしてくると思われます。富士山の世界文化遺産登録が呼び水となって、世界中から多くのヒトやモノが日本に集まり、企業にも国民にも活気がとり戻されるよう祈ります。

さて、永頼会松山市民病院は今、新S棟建設や院内業務のIT化に向けて変革を迎えています。建設は順調に進み、来年(平成26年)2月初旬に第一期工事の終了引渡し、2月22日には記念式典と内覧会、その後3月末に引越し、4月1日より診療報酬改定に合わせて電子カルテによる新病棟診療をスタートする予定です。

また、昭和42年創立の永頼会松山中央乳児保育園は社会福祉法人へ移行し、同地で新築建て替えの計画が、本年6月の永頼会評議員会で承認されました。保育園に併設していた看護学生実習棟と職員宿舎は、先行して平成26年3月末までに病院の敷地に新築移転しま

す。併せて自走式駐車場の設置も必要となります。病院の増改築に伴い、これらの永頼会関連施設が再建・整備されることは、職員の雇用確保とモチベーションの高揚、また多様な働き方への支援、そして地域社会への貢献などに繋がるものと考えます。

当院は、救急・急性期医療を中心に、専門性を高く保ちながら、地域の基幹病院としての医療を提供する役割が求められています。輪番制二次救急医療では、年間救急患者総数8,623人(H22年度)から10,595人(H24年度)へ、また救急車搬入件数2,623件(H22年度)から2,945件(H24年度)へと増加しつつあります。これを受け、この4月よりN棟北側の一方通行路に面して救急車専用口やER室が整備され、救急車の搬入・搬出がスムーズになりました。また、5月より小児の二次救急の輪番担当も関係各位の協力により再開されました。

一方、がん連携推進病院の県指定を受け、リニアックの更新や、がん登録システム、精神科医を加えた緩和ケアチームなどを充実し、健診・ドック課の活動にも力を入れています。

変革のためには舵取りとエンジンが必要です。舵取りの方向性は既に決まっており、職員は推進力となる成長エンジンの役割を果たします。

「信頼と実践」—地域の信頼に応える医療の実践、という今年のスローガンのもと、職員一同新たな変革へ向けて取り組んでまいります。今後とも、私も松山市民病院へのご指導ご鞭撻をよろしく願い、今夏の近況報告とさせていただきます。

撮影：非常勤顧問 / 鷲峯 知典 (新S棟の工事風景)